

コース管理の質の 向上に大きな期待

国内のゴルフ場では今、ゴルフコース管理支援システム「アルバトロス」が徐々に
ではあるけれど着実に広まりつつある。最近導入に踏み切った長崎・大村湾カ
ントリー倶楽部をモデルケースに、その威力と期待感を探ってみた。

コース管理の効率化で
ゴルフ場を元気に

「キーパーアシストツール」と銘打
った「アルバトロス」は、福岡に本
社を置くインフォニア(株) (代表取締役
役・中村太郎) が開発したゴルフコ
ース管理用のパソコンソフトで、6
〜7年前から主に口コミで広まり、
現在では芥屋GCや古賀GCなど九
州を中心に関西・中部・関東にも導
入が始まり、すでに全国20コース以
上で稼働している。大村湾CCもま
た、導入のきっかけは口コミだった。
「数年前から、『こんなシステムが
ある』という情報は耳にはいま
したが、我々アナログ世代には多少
抵抗があったのは事実。でも現状と
して、そんなことを言っていられな
い状況にあった。というのも、オー
ルドコースとニューコースと合わせ
て36ホールあり、それを18ホールの
スタッフで管理していた状況で、そ
れにはより効率的に作業を進める必
要があったからです。さらに春先
には芝の病気が顕著になって、お客様
には大変迷惑をかけてしまった」
(オールドコース支配人・久保裕之
氏)

こうした状況が重なって、「すぐにでも手を打たなければ」と、長崎国際GCなどすでに同システムを導入しているコースを訪ねて情報を収集。その結果、導入に踏み切ったという。

開発者の中村氏によれば同システムは、コース管理の効率化、見える化を実現し、ゴルフ場を元気にするシステムだという。機能としては、まず日報があり、日々の作業状況を入力し、データを積み上げていくことで、農薬、肥料、機械、労務などを一括管理できるようになる。日報と連動して農薬や肥料の詳細な情報、在庫状況、発注管理などが自由にできるし、機械の整備状況、稼働状況、部品燃料の消費状況の検索集計が可能だ。さらに従業員別の作業時間集計などの労務管理もできる。

大きな機能のもう一つは、航空写真を用いた視覚的なコース管理機能だ。システム名にもなっているアルバトロス（アホウドリ）が上空から見下ろすようにコースの全容を詳細に把握できるうえ、線や文字を書き込むこともできるし、施工図や配管図などを登録することもできる。

では、こうした機能を持つ『アル

バトロス』を導入すると、コースにとってはどんなメリットがあるのだろうか。そのメリットは大きく三つあり、第一には、農薬や肥料、芝、砂、燃料などの仕入れと在庫管理が容易になり、最適化できること。第二には、各機械の整備状況、稼働状況、部品燃料の消費状況の検索集計が自由にできるため、機械の最適化が可能になること。第三には、労務の最適化だ。

計画を立てやすく 作業効率がアップ

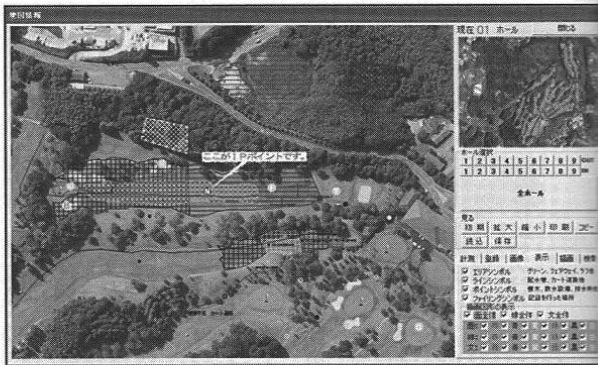
「導入してまだ日が浅く、若手スタッフを中心にデータを入力している段階ですが、日々現場でどういう作業が行われているのかがわかるし、そこから浮かび上がってくる問題点があるので、それに対してスピー



大村湾CC 久保支配人

ディに対処できるというのがいいですね。たとえば去年の今ごろはどんな病気が出て、それに対してどう対応していたかなどは、これまでは紙ベースをめぐることから始めなければならなかったけれど、それがマウスの操作だけで簡単に確認できるので、定期的な計画を立てやすくなるのが大きい。もちろん、コース管理のスタッフも共通の認識を持っています」（久保支配人）

先にあげたように『アルバトロス』にはいくつかの導入メリットがあるが、久保支配人が実感し、総合的に最も期待しているのは「計画的」だ。
「これまでは、なかなか状況が把握できず、作業工程が追いつかないという事情がありました。特に近年は異常気象で、病気にしても気づいたときにはすでに遅しで、手が回らずにどんどん悪化してしまつたということがありました。でもこのシステムを使うと発見が早いし、今後データを積み上げていけば、計画的、かつ効率的に対処できるようになる。これまででは経験的に、今までやってきたことを繰り返すのが精いっぱい、いつまでたっても改善できなかった。



航空写真を用いているのでコースの全容を詳細に把握できる

でも、このシステムによって日々、月間、さらには年間の作業工程を計画的につくれるようになるというのは大きい」

計画を立てやすくなったことで、コース管理の質の向上が図れるようにもなったという。たとえば同クラブでも、年間を通してさまざまな競技やコンペがあるが、今年あたりは、アスリートゴルフからは「グリーンがあまりにも遅すぎる」という苦情が出たし、逆にアベレージゴルフからは「とても速すぎて」と言われたことがあった。

「これまでは比較的场所当たりのだつ



季節や競技などを考慮し計画を立てることで作業効率が格段に良かった

たけど、年間の計画を立てやすくならねば、こうした問題にも前もって対処できる。年間の計画がきちんできると、それぞれのスタッフが今月はこれを、今週はこれを、今日はこれをやらなければ、というのが明確になる。キーパーにしても、今までは極端な話、朝コースを見て今日はこうしてくれ、ああしてくれと指示を出していたが、明確な計画が出てくれば、よりタイムリーに、しかもよりの確に指示ができるようになる」

コミュニケーションツールとしても大きな役割を担う

対して、コース管理のスタッフはどう見ているのだろうか。

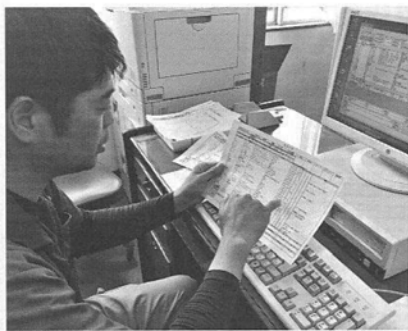
「まだまだデータ収集の段階で、四季を経てみないと何とも言えないけれど、作業効率が上がるのは間違いないですね。肥料や農薬などの散布

にしてもこれまでは個人が蓄積してきた経験やデータをもとにしていたが、このシステムでデータを積み上げていけば、経験に加えてよりの確で効率的な作業ができるようになるでしょうね。(福田哲也氏)

また、農薬や肥料、機械などの在庫管理、整備状況などに関しても効率は格段によくならそう、とも。

作業効率のアップという意味では、最近の例では次のようなことがあった。

「散水配管の老朽化によって、コースのあちこちで破裂あるいは破裂の危険個所が出ていて、その対応に追われているのですが、アルバトロスのおかげで埋設物の補修を視覚的に記録することで、作業を効率よく計



「データを積み上げることで今後はより効率的な作業ができるのでは」と語るコース管理の福田氏

画的にできることなども、意外なメリットでした」(久保支配人)

また、15〜16名の管理スタッフが情報を共有できることで、コミュニケーションツールとしての機能も高く評価している。スタッフ同士はもちろん、コース管理側とクラブハウス側とのコミュニケーションがよりスムーズになっていくだろうという。

「アルバトロス」は、キーボードを使わずにほとんどマウスだけで操作できるのも機能的には大きな特徴としてあげられる。農薬や肥料、機械などの基礎情報は前もって入力されているので、導入時からスムーズに作業が行える。

「我々は手書きの世代だし、キーパーにしてもベテランはコースの知識は豊富に持っているけれどアナログ世代が多い。よくいえば、野性的なカンで動くというか。そのため取っかかりは若干抵抗があったが、ほとんどマウスだけで操作できるので、慣れてくればまったく問題ない。先にも言ったことですが、効率化や省力化が図れることで、コース管理の質をより上げていくことができるのでは、と期待しています」(支配人)



管理作業の見える化やデータの蓄積だけでなくコミュニケーションツールとしても威力を発揮する「アルバトロス」

オリテイの向上へと繋がっていくということだろう。

「アルバトロス」のポテンシャルに感心しきりの久保支配人は今では、「もっと早く導入していれば」と思っているほどで、3年後、5年後の成果にはさらに大きな期待を寄せている。

インフォニア(株)では11月、パソコン版の「アルバトロス」に加えてインターネット版の「アルバトロスオンラインクラウド」を市場投入する。コース外においても情報の共有と活用ができるシステムで、コースの運営と管理において一層の効率化や最適化が可能というもの。これにより、「アルバトロス」を含めて普及には一段と拍車がかかりそう。